

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (九州)	◎	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・不景気で閉店している花屋もあるため、花屋が少なくなり、卒業式のための花束の注文を断らなければならないほどの忙しさである。人員を増強しても対応ができることではないため、注文を断るケースも発生している。
	◎	家電量販店（店員）	販売量の動き	・この3年間で、今月の売上は良い。
	◎	住関連専門店（従業員）	単価の動き	・例年同様、新生活需要の高まりで単価は好調に推移している。前年は新型コロナウイルスによる学校閉鎖やリモート授業等もあったために転居自体を控える動きがあったが、今年はそのような傾向はみられない。
	◎	観光型ホテル（専務）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除となり、客の動きが出ている。休日の来客数はとても多いが、平日の人の動きはまだ良くない。
	○	商店街（代表者）	単価の動き	・来客数は変わらず低迷したままであるが、まとめ買いが増え、客単価は増加している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除になり、人出は回復している。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除され、来街客も増え、少しずつ活気が戻ってはいるが、消費行動は新型コロナウイルスの感染が発生する前の7割ほどである。
	○	一般小売店〔食料雑貨〕（店員）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、需要拡大に期待したが、さほど大きな変化とはなっていない。飲食店向けの食材等が値上げとなり、値上がり前の駆け込み需要で多少売上が上がっている。
	○	百貨店（企画担当）	お客様の様子	・複数名での来店が増え、短い時間で買物を済ませる客よりも、回遊をしている客が多くなっている。また、県外からの客や観光客等、キャリーケースでの来店も増えている。
	○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルス発生前ほどではないが人流が戻りつつある。イベントの開催や花見行楽の利用が確実に増加している。一方で、自粛の雰囲気により、夜間帯を中心に食事、飲酒、日用品等の在宅需要も継続している。
	○	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除された時期に暖かくなり、春物を見にくる客が増えている。スプリングコートやジャケット等の上着の売上が良い。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	お客様の様子	・前年とは違い外資系半導体工場もでき、移住等により新規の客の増加が見受けられる。
	○	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染が少し落ち着いたため、イベントや宴会が始まり、人が外出し始めている。客は決して多くはないが、以前よりも客足も増え、売上に期待ができる。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除となり、少しずつではあるが来客数や予約数も増加している。新規感染者数はまだ下げ止まりしているが、今後の新型コロナウイルス感染症対策事業の実施に期待している。
	○	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用中もかなり客は来ていたが、自粛疲れで動いている状態である。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除になり、宿泊、レストラン共に好調である。宴会部門はまだ客足は戻っていない。
	○	旅行代理店（職員）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除となり、3か月前より来客数や販売量が増加している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除となり、卒業、入学等の学校行事や企業の歓送迎会も小規模ではあるが開催している。また、春になり観光客も増え、人の流れが活発になっており、今月の売上は新型コロナウイルス発生前の水準に回復している。
	○	タクシー運転手	それ以外	・まん延防止等重点措置が解除されて、人出がかなり戻っている。しかし、第7波の懸念やウクライナ情勢、燃料の価格高騰等、不安要素は多い。

○	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の販売量が予想を上回っている。特に営業面を強化したわけではないが、需要が高まっている。
○	学習塾（従業員）	お客様の様子	・問合せが増加している。
○	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・1～2月にかけて、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、客の感染によるキャンセル増加や、社員や社員の家族の感染によるサービス縮小により、厳しい経営環境であったが、3月以降の新規感染者数の減少により、客が戻りつつある。
○	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・展示場への来客数は増加傾向になり、客の動きも少しずつ出てきている。契約者数も増加傾向になっている。
□	商店街（代表者）	それ以外	・新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が解除され、人の動きは増え、売上は上がっている。しかし、今までの反動からくる行動であり、景気が良くなっている判断にはならず、景気は変わらない。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・全国的に来客数は、激減している。まん延防止等重点措置が解除になり、若干動きが出始め、売上につながっている。
□	商店街（代表者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置は解除になったが、ガソリンや灯油の価格高騰に加え、食品の値上げもあり、客の買物の様子は変わってきている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除されたが、新規感染者数が減っておらず、商店街で買物する客はまだ少ない状況である。
□	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・1～2月は全国的な寒さで、かなり冷え込んだ影響により、県産のピーマンやトマト等の野菜の値段が高騰しており、3月は少し安くはなったものの、消費は下がっている。販売量も少なく、単価も上がらないため、1～2月の売上と余り変わっていない。
□	百貨店（企画担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大の影響により、来客数は低調のまま推移している。加えて、ロシアのウクライナへの侵攻の影響もあり、消費意欲は冷え込んでおり、一部店舗では、観光客が増加しているものの、大幅な改善にはつながっていない。
□	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・月初めは、まん延防止等重点措置の解除で来店回復の兆しがあったが、下旬には感染再拡大で回復が頭打ちになっている。平日の午前には来客数はあるものの、依然土日は減少している。一方、感染防止で開催した物産催事やクレジット催事にはぎわっており、午前の来店や目的買いでの交通機関の利用は減少しているが、店舗周辺での買物待ちの駐車が増えている。来店での購入客数や単価、商品単価は堅調で、Web利用や県下のサテライトショップやギフトショップ利用の地元店舗での購買も好調であるが、感染症対策で外出自粛は継続している。
□	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・冬型の鍋物商材が減り、コロナ禍でも行楽用品の売上が好調となっている。ただし、夕方6時以降の売上が減少しており、外食需要の上昇がある。
□	スーパー（統括者）	来客数の動き	・インスタペーカリーのレジを撤去し、集中レジでの精算にしたことで来客数の減少はあるものの、買上点数の維持や品単価の上昇による客単価の増加により、売上は前年並みに確保している。
□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染が沈静に向かい、消費回復の兆しがあったが、現状は落ち込み続けた2年間の売上をほんの僅かに上回る程度でしかない。最低時給も毎年上がり、運営は非常に厳しい。
□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除となり、人の動きは多少増えつつあるが、消費者の購買動向や来店状況は今一つ伸び悩んでいる。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・在宅勤務が定着しており、朝の来客数の減少傾向が続いている。
□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症は少し落ち着いているが、夜の来客数はまだ少ない。
□	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数の変化はない。

□	衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・3か月前と比較するとまん延防止等重点措置が解除されたが、ロシア・ウクライナ情勢の影響の不安や、加えて気温の変動が激しい月である。この業界では天候に左右されてしまうため、来店は若干あっても、なかなか購入されない厳しい状況である。
□	家電量販店(店長)	販売量の動き	・販売量が前年比では変わらず、3か月前の状況でも横ばいである。
□	家電量販店(従業員)	来客数の動き	・来客数がほとんど変わらない。
□	住関連専門店 (経営者)	来客数の動き	・今月は、以前に下見をしていた客の成約が多い。一方、都市部でのキャンペーンでは、来場者が大きく落ち込んでいる。
□	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響により来客数は減少しており、まだ回復していない。
□	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・2月20日をもって、まん延防止等重点措置が解除されたが、それ以降の状況も変化はなく、予約が入らない。3月中旬から予約が入ってはいるが、若干増加した程度で悪い状態が続いている。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスも少し落ち着き、ゴルフ客や県外の客の利用に期待している。
□	通信会社(営業担当)	来客数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株が落ち着く心配がない。
□	ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・ウクライナ情勢や原油、小麦の価格上昇の影響は限定的であり、3か月前の客の心理に変化がなく、来場者は順調に推移している。
□	美容室(経営者)	販売量の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の発生もあり、まん延防止等重点措置の解除により、少しずつ回復すると思われていたが、春になり、人がおしゃれを楽しむ時期にはなかったものの、売上の回復の兆しがみえていない。自粛の期間が長いせいか、客の動きが悪い。
□	美容室(店長)	お客様の様子	・まん延防止等重点措置は解除になったが、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少せず、不安を抱えながら生活する客が多い。
□	その他サービスの動向を把握できる者(所長)	お客様の様子	・売上や損益にほとんど変化なく推移している。
▲	商店街(代表者)	来客数の動き	・例年であれば忙しい時期だが、前年と比べると売上は少ない。2か月前からまん延防止等重点措置が適用され、景気が悪い状況が続いている。
▲	一般小売店[鮮魚](店員)	お客様の様子	・景気の悪い話を聞かない。まん延防止等重点措置が解除されても一気に景気は良くなるため、徐々に良くなることを期待している。
▲	一般小売店[茶](販売・事務)	お客様の様子	・新型コロナウイルスに生活は慣れてきているが、相変わらず売上は伸びない。外出は少しずつ増加しており、この生活が長くなったことで暮らし方にも変化があり、通信販売での食材の購入や、外出時のまとめ買いが増加している。何年も取引していた外交販売での売上は取引が途絶えている。新型コロナウイルスの影響であるが、今後もこの状態が続けば、店頭販売だけでは売上は伸びない。
▲	百貨店(経理担当)	競争相手の様子	・市内大型店4店の売上の前年比は、3か月前102.8%、今月98.7%である。3月は3か月前との対比で苦戦を強いられており、まん延防止等重点措置の解除後もなかなか全品種の売上が伸びていかない。
▲	百貨店(業務担当)	お客様の様子	・ガソリン価格高騰や、生活用品の値上げを受け、コロナ禍、ウクライナ情勢等、世相がこれまでになく不安定なことに対して、多くの客が危惧しており、ゆっくり買物ができる状況ではない。

	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス新規感染者数は少しずつ減少しているが、まだ感染者数自体は下げ止まりしたままで、まん延防止等重点措置は解除されたものの、来客数に変化はない。以前との消費者意識の変化が通常となり、客は必要ときにしか買物をしない。一方で、商品の値上げにより商品単価は上昇しているが、来客数の減少分までは補填ができていない。
	▲	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除となり、新型コロナウイルス新規感染者数も減少したため、まとめ買いは減少し、外食や観光に消費が回っている。
	▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の終息が見込めず、ウクライナ情勢による原油価格や原材料費の高騰を受けた商品価格の値上げ等の影響が、消費減少の原因になっている。来客数の減少を販売量の増加で補っていたが、販売量が落ちている。
	▲	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・まん延防止等重点措置が解除されたが、客の動きはまだ悪く、売上は前年を下回っている。また、行楽の季節ではあるが、酒類の売上は低迷しており、厳しい状態が続いている。
	▲	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・3月中旬にまん延防止等重点措置が解除されたが、立地にもよるが、夜の来客数がやや減少している。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・前年末は、第6波前でショッピングセンター全館で好調であったが、現在は新型コロナウイルス感染症の終息が見え始め、1～2月前半と比較すると、やや消費者動向に活気が戻っている。しかし、第7波への懸念や、繰り返されるまん延防止等重点措置の影響で財布のひもは固くなっている。
	▲	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況により大きく影響を受けている。3月に入り、まん延防止等重点措置は解除し一時的に景気は良くなっているが、再び感染が拡大しており、景気は悪くなる。
	▲	観光型ホテル（総務）	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が延長し、歓送迎会の予約キャンセルが多く、レストランの来客数も大きく減っている。
	▲	通信会社（統括者）	販売量の動き	・携帯電話の販売台数は、前年比、計画比共に下回って推移している。来客数も前年と比較しても減少している。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・3月は、12月の次に忙しい月であるが、やっとまん延防止等重点措置が解除になったにもかかわらず、来店客は期待したほどではない。
	▲	設計事務所（代表）	単価の動き	・物の原価が上がっている。
	▲	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置が解除になり、商店街の客足は増えている。しかし、若年層が卒業式等で外出していることが多いが、購買目的での外出は少ないため、経済的には余り動いていない。
	×	スーパー（店長）	販売量の動き	・衣食住関連商材において、全て前年割れの数値状況である。新型コロナウイルスの新規感染者数の減少の停滞に加え、ウクライナ情勢の悪化等、良い話題がない。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月からまん延防止等重点措置が解除されたが、来客数は低迷している。春の異動による歓送迎会の時期であるが、コロナ禍のため会社の行事は自粛され、全く客がない。特に週末の売上の落ち込みが大きい。
	×	設計事務所（所長）	単価の動き	・素材や製品等の材料単価だけでなく、生活必需品も値上がりしている。一方、収入は変わらないため、自由に使える金が減少している。
企業動向関連	◎	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き続き、受注が好調である。
(九州)	◎	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置が解除されてから、店は満席になり、街には多くの人が出歩いている。今までの規制で抑えていたことで、一気に人の動きが出ており、今後の感染再拡大で景気が懸念されるところである。

○	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置が解除され、外食産業から少しずつ注文が増えている。コロナ禍ではあるが、卒業や移動の時期になり、量販店も売上が戻っている。冷食メーカー向けも注文が多い状態で、値上げ交渉も順調に進んでいる。
○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体製造装置関連機械加工の受注が増えており、大幅な受注量となっている。その他の分野は特に動きはない。
○	電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染が落ち着き、経済が正常に回復している。ウクライナ情勢で状況は変化する。
○	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・半導体関連客からの受注が継続して好調である。
○	その他製造業 [産業廃棄物処理業]	取引先の様子	・以前は原料が手に入らず、なかなか生産できない状況が続いていたが、今月から少しずつ原料も調達でき、生産が増えている。
○	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新しい生活様式が浸透し、貨物量は新型コロナウイルス発生前の水準に戻りつつある。
○	金融業（営業）	取引先の様子	・水準としては高くないが、新型コロナウイルスオミクロン株がピークアウトし、まん延防止等重点措置が解除されたため、人流が戻っている。
○	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・生活環境の変化で、19時以降の来客数が減り、売上が減少している。
□	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・東北地震や新型コロナウイルスの影響で、同業者では悪い状況が続いているため、休みを取ることでなくなり、生産性が落ちている。加えて、機械の老朽化や、部品の不足等でも苦労している。
□	金属製品製造業（事業統括）	受注量や販売量の動き	・引き合い数は増加傾向にあるが、受注量は増加しない。材料費の高騰、不足により発注延期、又は納期延長が続いている。
□	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・3か月前と比較すると、少し景気は良いが、新型コロナウイルスや輸出入、円安等の外的要因があるため景気の状態ははっきりつかめない。今後、徐々に回復する見込みである。
□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・飲食店の時短営業は解除されたが、客足の戻りは鈍く、宿泊施設の宿泊予約状況には徐々に回復がみられる。また、コロナ禍で旅行やレジャー関連の支出を抑制されていた反動もあり、高級腕時計の売上は好調で、在庫が追い付かない店舗もある。自動車販売では決算セールが追い風となったが、納期が見通せないことを理由に購入を見送る客も多い。
□	不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・販売価格が下降している。
□	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数や金額に大きな変化がない。
□	経営コンサルタント（社員）	それ以外	・4か月間、毎月200枚前後のダイレクトメールを送送しているが、その反応が余り良くない。
□	その他サービス業 [物品リース]（職員）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置の適用により、経済活動が停滞しており、大幅な変化はみられない。
□	その他サービス業 [コンサルタント]（代表取締役）	取引先の様子	・市町村からの調査や計画、設計の委託業務の発注は、例年、企画提案型等3月に行われるものがあるが、今年度は、3月に発注される業務が少ない状況である。新年度当初予算に計上されていないためと考えられる。このため受注の機会が少なくなり景気が悪くなる。
▲	食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原料の伝染病による歩留低下や材料費の高騰が価格に転嫁できていない。
▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注関係は非常に厳しい。卸商社では、新規の商品がほとんどなく、前年の売上が1割落ちており、Web関係でも、若干売上が減少している。

	▲	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ウクライナ情勢や原油の価格高騰の影響で輸入貨物に影響が出ている。まん延防止等重点措置が解除されても、すぐには消費が回復せず、飲食業や観光業が厳しい状況であり、木材の輸入もかなり減少している。運送会社では、原油の価格高騰による値上げをしたところであるが、貨物が減少しているため、他社に貨物が流れるのを恐れて値上げできずにいる。
	▲	通信業（経理担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ情勢が悪化している。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響に加え、ウクライナ情勢を契機に原材料費の値上がりが目立ち、百貨店の売上が鈍化する等個人消費に勢いがみられない。また、半導体の供給不足等もあり、乗用車の販売が伸び悩んでいる。
	▲	金融業（営業担当）	取引先の様子	・ロシアのウクライナへの軍事侵攻により、天然ガスや石油等のエネルギー価格の上昇が懸念されている。また、物価の上昇が続き、半導体関連商品の流通が滞っている状況で、全業種でモノ、カネの流れが鈍化しており、売上の予定が立たない。業種問わず、資金繰りの悪化や赤字が懸念される。
	▲	金融業（調査担当）	取引先の様子	・まん延防止等重点措置は解除されたが、新規感染者数は高い水準であり、経済活動に一定の抑止力が働いている。また、自動車関連事業者においては、部品不足により工場の稼働が十分ではなく、鉄鋼価格の上昇により材料価格の値上げ圧力が掛かっており、収益力の低下を懸念している。
	▲	新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・旅行広告等は、少しずつ申込みがありつつも、新聞広告への出稿の動きは鈍い。
	▲	広告代理店（従業員）	受注量や販売量の動き	・まん延防止等重点措置は解除されたものの、ロシアのウクライナへの軍事侵攻による影響で、エネルギー価格が高騰している。物流費用の増加により、収益の減少に歯止めが掛からない。
	×	建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・令和4年度に向けて、県の舗装工事は入札も執行されたが、十分な発注件数ではない。土木工事では一般競争入札が数本執行されたが、必要な件数ではなく、市の工事についてはほとんど発注されていないため、新年度の発注に期待をしている。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・成約件数が3か月前と比較して1.5倍増えている。3月総体の注文数から考えると、もう少し増えてもよいはずであるが、人材不足が続いている。
	○	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・大型イベントの開催も決まり、イベントの発注が増えている。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・まん延防止等重点措置が解除され、飲食店を始め中心市街地や郊外のショッピングセンターへの人出が増加している。出張等も解禁され、新幹線の乗客も増加している。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・まん延防止等重点措置が解除になり、企業や業界、団体の会合が再開し、ホテルや宴会場等の利用が増えている。一方で、宴会や懇談会は講演のみで食事なし、又は酒類なしの形式になってきている。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により、新規求職者や有効求職者共に前年比で減少となっているが、新規求人数や有効求人数は前年比を上回っており、有効求人倍率も3か月連続で前年を超えている。
	□	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・新型コロナウイルス対応業務の依頼が相変わらず多く、そこに求職者数が流れている。通常の事務派遣業務の間合せも増えつつあるが、なかなか申込みがなく、人選に苦戦している。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・まん延防止等重点措置の解除により、春先需要を見込んでいたが、期待したほどの動きはない。先行きに対する不安もあり、街の人の動きも停滞している。

□	新聞社 [求人広告] (社員)	周辺企業の様子	・年初より、新型コロナウイルスの新規感染者数が急増し、新聞広告の量は旅行や宿泊関連を中心に落ち込みを見せたが、まん延防止等重点措置が解除になり、現在は新聞広告の量も上向きになっている。旅行や宿泊関連の広告は復活の兆しがあり、更にGo To Travelキャンペーンの再開を期待している。景気全体としては、一旦落ち込んだ後、上向きになっている。
□	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・まん延防止等重点措置は解除されたが、サービス業や飲食店に客足は戻っていない。
□	民間職業紹介機関 (職員)	それ以外	・学校間での差はあるが、今年3月に卒業した学生の就職状況は、前年より若干下回っている。企業の採用意欲は高いが、質にもこだわっており、コロナ禍が続き、就活がうまくいかなかった学生が多かったことが影響している。また、外国人留学生については、積極的に採用したい企業が少なく、厳しい状態が続いている。
□	学校 [大学] (就職支援業務)	求人数の動き	・求人数は、前年と比較して増えてきている。企業の採用活動も活発に動いており、既に内定を得ている学生も見受けられる。
▲	—	—	—
×	—	—	—